

テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

FF14 備忘ログ(PATCH2.0) ギャザラー編



園芸師クエスト

園芸師ギルド 入門編

園芸師ギルド受付

レオンソ : ようこそ、園芸師ギルドへ。本日はいかなる用件だろうか。……ほう、園芸師になりたいというのか？
園芸師を目指すのならここ「園芸師ギルド」に入門し、学ぶとよいだろう。
ギルドマスター、フフチャ様をはじめ、よい指導者が揃っている。
どうだ、園芸師ギルドへの入門を希望するか？

いいえ

そうか……残念だな。園芸師はグリダニアでは歴史も古く、特にやりがいのあるいい仕事だと思うのだがな。
また気が向いたら来てくれ。うちはいつでも新たな仲間を歓迎しよう。



園芸師ギルド受付 はい

レオンソ : そうか、ではそんな意欲あふれるお前に、私から園芸師ギルドの歴史について簡単に説明することとしよう。
園芸師ギルドの歴史は古いぞ。記録によると、**約500年前の建国の時代**から既にギルドの原型となる組織があったという。
これは、園芸の根本思想である「**黒衣森からの恵みを得る**」ことが、「精霊」との対話と深く結びついていることに関係し……
おっと、余所者に「森」や「精霊」と言っても少々伝わりにくいかもしれんな。簡単に言えば……
黒衣森は、我ら人のものではなく、精霊のもの。500年の昔から、園芸師が森の恵みを得るためにはまず、
精霊に許可を得ねばならなかったということだ。
精霊と、まともに対話できるのは「**道士様**」だけだ。**精霊の言葉を効率的に園芸師に伝えるため**、いつしか
組合が生まれ、これが園芸師ギルドの原型となったそうだ。
現在の園芸師ギルドにも、この役目は残るが、冒険者や新人園芸師に正しく安全な採集方法を
共有するという目的も重視されつつあるのだ。
……どうだ、少し難しかったかもしれないが、歴史ある我が園芸師ギルドについて、少しはわかってもらえただろうか？
さて、ここからはお前の話だ。森だ精霊だと小難しく話してしまったが、
我ら園芸師にとって最も重要なのは、自然を敬う気持ちだ。
もしも我が園芸師ギルドに入門し、園芸について学びたいというのなら、その気持ちを「ある方」に確かめてもらわねばならん。
私がしかるべき手続きを紹介しよう。気持ちが固まったならば、あらためて私に声をかけるといい。



筆頭園芸師フフチャ

園芸師ギルド受付

レオンソ : 私に話しかけたということは、園芸師ギルドに入門する心の準備ができた、ということだな？

いいえ

そうか、決心がつかないならそれもいい。

園芸師ギルドの門はいつでも開いている。お前の心が固まったなら、また声をかけてくれ。

はい

うむ、実に喜ばしいことだ！ではさっそく、我が園芸師ギルドのマスター、フフチャ様を紹介しよう。

彼女は誰よりも自然を慈しむ、愛情深いお方だ。最もよい木材を探し当てる目利きの確かさから

皆、尊敬の念をこめて「筆頭園芸師」と呼んでいる。

フフチャ様は、この建物の外にいらっしゃる。彼女に声をかけ、お前の意思を伝えてくるんだ。

フフチャ : こんにちは、はじめまして。園芸師ギルドへの入門希望者ですね。私はフフチャ、園芸師ギルドのギルドマスターです。

レオンソから簡単に説明は受けていると思いますが、私からも、あらためて確認させてください。

草木を育み、その恵みを授かる園芸師は森の都と称されるこのグリダニアの中でも

最も自然に近い存在であると言えます。

しかし自然は、私たちを優しく包み込む存在であると同時に時に、命を脅かす恐ろしさも併せ持っています。

園芸師ギルドに入門し、園芸師となるということは、恵みばかりを求めず、自然の在り様と向き合うということ。

さあ、あなたにはその覚悟があるのでしょうか？

いいえ

フフチャ : そうですか……。私も無理には言いません。生半可な心では園芸師は務まらないのですから。

また、ご縁がありましたら、園芸師ギルドの門を叩いてください。お待ちしておりますよ。



はい

フフチャ : ……よい返事です。わかりました。園芸師ギルドへ、あなたをお迎えしましょう。

我がギルドの一員となったあなたに、この「ウェザードハチエット」を授けます。まずはこれを装備してみてください。

ハチエットを装備し、園芸師となりましたら、園芸師の仕事についてご説明しましょう。

装備できたら、また声をかけてくださいね。



園芸師の芽ぐみ

フフチャ：ちゃんとハチエットを装備できたようですね。ハチエットは園芸師にとって、命とも言える道具です。刃の鈍ったハチエットをいくら振ったところで、樹木から恵みを受け取ることなどできません。常に手入れを怠らないようにしてくださいね。

さて、まずは「伐採」の基本を覚えていきましょうか。手始めに「ラテックス」を10個ほど採集してみましょう。採集は、都市外のさまざまな場所で行えますが、ものによって採れる場所が異なります。

「ラテックス」でしたら、都市の入口近くで採集できます。「青貉門」か「黄蛇門」のどちらかから出て、切るに適した樹木……つまり「良木」を探してください。

「良木」を見つけたら、いよいよハチエットの出番。道具を手にして、採集を試みてください。さあ、頑張ってくださいね。

フフチャ：「ラテックス」は手に入りましたか？「青貉門」や「黄蛇門」の近くの木から採集できるはずですよ。

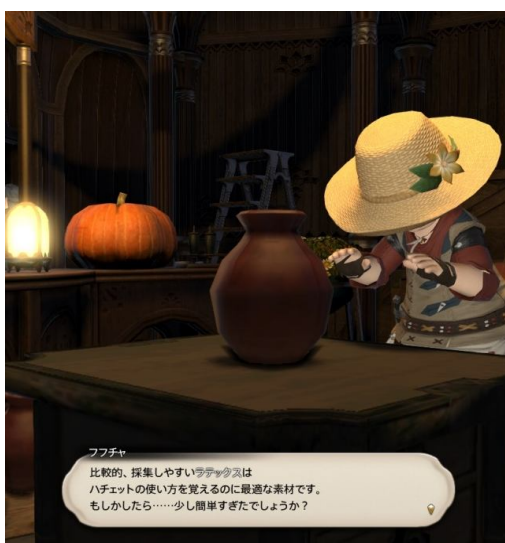
フフチャ：ラテックスがちょうど10個、ばっちりですね。上出来ですよ、◇◇◇。

比較的、採集しやすいラテックスはハチエットの使い方を覚えるのに最適な素材です。もしかしたら……少し簡単すぎたでしょうか？

でも、今回のやり方が伐採の基本です。採りたいものに合わせて、良木を選んで採集する。そのためにも、何がどこで採れるのかの知識が大切なのです。

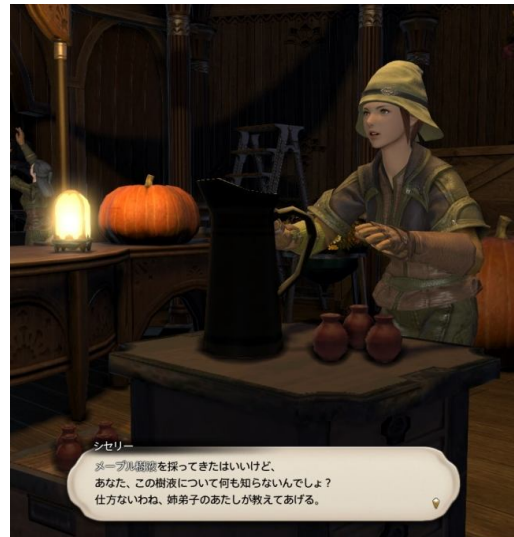
さまざまな場所に赴いて、伐採の腕を磨きながら、何が得られるのか、知識を蓄えていってくださいね。

ハチエットの使い方に慣れてきたところに、またギルドを訪ねてください。あなたに新しい課題を用意しておきましょう。



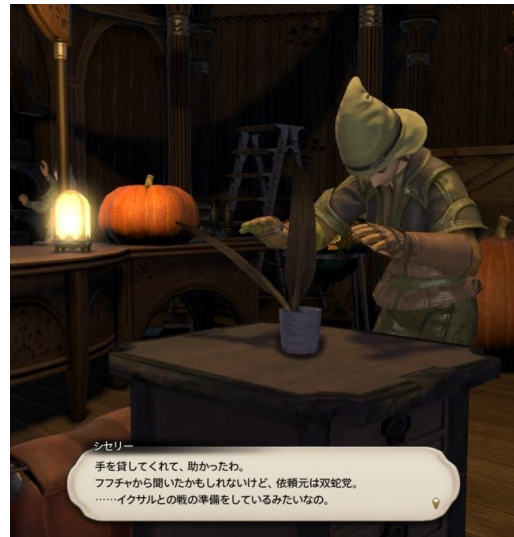
笑顔をこぼして

- フフチャ：こんにちは、◇◇◇。園芸師の仕事に慣れてきたみたいですね。若木のように、健やかな成長を感じます。でも、あなたはまだまだ駆け出し園芸師。もっと森を知り、自然を知ってほしいのです。腕を上げたあなたに、ひとつ課題を与えましょう。「ひそひそ木立」に生えている木から、「メーブル樹液」を50杯、集めてきてください。メーブル樹液を採集できたら「園芸師ギルド」の「シセリー」に渡してくれますか？ 彼女がメーブル樹液を必要としていましたから。それでは、頑張ってください。応援していますよ。
- シセリー：……なあに？ メーブル樹液なら「ひそひそ木立」の近くで採集できるわよ。もしかして、あなたがメーブル樹液を届けてくれるの？
- シセリー：メーブル樹液、50杯分ね。ご苦労様。……ふうん、あなたがフフチャが目にかけてるっていう新人園芸師だったのね。メーブル樹液を採ってきたはいいいけど、あなた、この樹液について何も知らないでしょ？ 仕方ないわね、姉弟子のあたしが教えてあげる。「メーブル樹液」は煮詰めるととても甘くなるの。いわゆる「メーブルシロップ」ね。そして、そこから作られるのが「メーブルシュガー」。
- これは甘味料として調理師には欠かせないものよ。今回採集してきてもらった分は、子供のためのお菓子の材料にするの。こんなにたくさん使い切るのかって？ もちろん、ひとりやふたり分じゃないわよ。木工師ギルドで面倒をみてる孤児たちの分だもの。……5年前の震災で親をなくした子たちよ。大人の前では平気そうにしても、やっぱり寂しいみたい。たまには甘いものを食べて、思いっきり笑ってほしい……
- べ、べつに、心配とかそういうのじゃないわよ？ 辛気臭いのが嫌ってだけ、勘違いしないでよね！
- ……あー、コホン。話が逸れちゃったわね。そうそう、園芸師はこうやって食材を手入できるから食材を扱うクラフターの「調理師」と相性がいいの。
- 調理師だけじゃないわ。木材を利用する「木工師」に、植物の繊維を利用する「裁縫師」もね。クラフターたちが、どんなふうに素材を使うか知っておくと、園芸師としての視野もひろがるわ。興味があるなら、挑戦してみたらどう？
- もちろん、園芸師の勉強も忘れちゃだめよ。ときおり「採集手帳」を見直して新たに理解できることが増えてないか、確認することね。……ふう、久しぶりに先輩らしいことしたら疲れちゃった。花に癒してもらいましょっと。



備えよ、戦いに

- フフチャ**： ちょうどいいところに来てくれましたね。また一段と腕をあげたようですし、少し手をかしてくれませんか？
実は、**グリダニアのグランドカンパニー「双蛇党」**から、早急に「クロウの羽根」が99枚、必要だと依頼があったのです。
鳥が木々に留まった時に残す「クロウの羽根」は、武器や防具の素材として使われるものです。
ただ、これだけの量を頼まれるということは……、近いうちに、大きな戦いがあるのでしょう。
依頼を受けたからには、全力で応えなければなりません。どうか、あなたも「クロウの羽根」の採集を手伝ってください。
クロウの羽根は、「**ギルバート監視哨**」の南方で採集できます。
99枚、採集できましたら、在庫管理を任せている「シセリー」に届けてください。よろしくお願いしますね。
- シセリー**： また、あなたが手伝ってくれるのね。クロウの羽根は「ギルバート監視哨」から南に進んだ先で採集できるはずよ。
- シセリー**： 99枚ぴったりね。ありがとう、確かに受け取ったわ。
手を貸してくれて、助かったわ。フフチャから聞いたかもしれないけど、依頼元は双蛇党。
……イクサルとの戦いの準備をしているみたいなの。
クロウの羽根は「フェザーハーブーン」や、「クロウクルーク」、「エルムベロシティボウ」なんかの素材として使われるものよ。
そして、それが大量に必要なということは、きっと大きな戦いになるのでしょうね。
あたしたち園芸師が都市の力になれるのは嬉しいけど……なんだかちょっと、複雑な気持ちだわ。
……あなたに言っても仕方ないわよね。ごめん、気にしないで。
あ、そうだ、忘れるところだったわ。あなたに渡すようにって、フフチャから「**サイズ**」を預かっていたのよ。
「サイズ」は草を刈るために使う「**副道具**」と呼ばれるもの。ハチエットみたいな「主道具」と併せて装備すると、
木を切るだけでなく「草刈」もできるようになるわ。
これを渡されたってことは、駆け出しは卒業ね。これからは、ギルドリーヴの採集稼業や
グランドカンパニーの仕事にも挑戦して、腕を磨くといいわ。
「サイズ」を装備できるようになったら、森に入って手頃な「草刈場」で試してみることね。
どんどん経験を積んで、またギルドを手伝ってちょうだい。



私利私欲の報い

フフチャ：最近仕事にも慣れてきたようですね、いい頃合いです。そろそろ仕事の幅を広げてみるべきでしょう。ちょうどいい案件がひとつあります。あなたにすべてを任せてみますから見事解決してみせてください。実は、黒檀商店街のアルバガストさんのところでうちのギルド員が問題を起こしたようでして……その後始末をお願いしようと思います。ギルドとは、お互いが助け合ってこそ成立します。あなたにも園芸師ギルドの一員としてそういう役目を担ってほしいのです。まずは「**黒檀商店街**」へ行って、「**アルバガスト**」さんから事情を聞いてください。くれぐれも丁寧な対応をお願いしますよ。

薬屋 アルバガスト：君が園芸師ギルドから派遣された者か。フフチャの代わりに事情聴取に来たわけだな。よからう、話をしようではないか。……私たち錬金術師は、薬草も素材として扱っている。天然自然の薬草を乾燥させ、すり潰して粉にしたり、それを煎じて、薬効を抽出したりするのだ。必要となる薬草の採集は、君たち園芸師の仕事だが……、私が最初に仕事を頼んでいた園芸師は、どうやら加減というものを知らなかったらしい。彼が力任せに刈り取ったせいで大切な薬は傷だらけ。とても使い物にはならんのだ。おかげで今、私の手元には薬草の在庫が空っぽなのだ。これでは製薬の仕事が止まってしまうのだよ。そこですまないが、まずは「**マージョラムHQ**」を10束、確保してきてくれないか。私の薬を待っている人は少なくないのだな。今回の一件では「犯人」をどうするかよりも、仕事が進められるかどうかの方が、大事なのだよ。それでは◆◆◆、くれぐれも、よろしく頼んだぞ。



薬屋 アルバガスト：「マージョラムHQ」の調達はどうか？このままでは仕事が止まってしまうのだよ。確か「**地神の忘却**」周辺の茂みから採集できると聞いたが。

薬屋 アルバガスト：確かに「マージョラムHQ」のようだ。助かったぞ、これで「**エーテル**」が作れる。私の作る「エーテル」は魔力を回復させる精魂薬だ。幻術士や呪術士にとって、なくてはならない薬だね。彼らがよく買い付けに来るのだよ。しかし、こうも素早く品を整えるとは見どころがあるな。園芸師が皆、君のような者ばかりなら、フフチャも気苦労はないのだろうが……。ともかく草刈場を荒らした犯人についてはあとは園芸師ギルドに任せるとしよう。フフチャにもよろしく伝えておいてくれ。

フフチャ：そう……ごくろうさまでした。問題を起こしたギルド員の行為については、私にも報告が上がってきています。どうやら、はやく仕事を切り上げようとするあまり、自然への感謝を忘れて、力任せに雑な採集をしたようです。その怠慢が、より多く自然から恵みを頂く事態を招きました。ギルドの筆頭園芸師として、その行為は見逃ごせません。彼は園芸師ギルドを除名することにします。**自然を尊重できない者に園芸師は務まりません。**森と共に生きることを忘れたとき……園芸師としてのその者は死ぬのです。もっとも……あなたに関してはそういう心配は無用だと思っていますが。それはそれとして◇◇◇、今回の依頼の品は、集めるのに苦労しませんでしたか？採集に苦労するときは、装備を見直してみてください。手袋ひとつ、靴ひとつ変えるだけでも、効果があるはず。これからも、あなたが腕をあげていくのなら、さまざまな品の採集に、挑戦することになるでしょう。その時につまづかぬよう、装備にも気を配ることです。園芸師◇◇◇。あなたの成長を、楽しみにしていますよ。

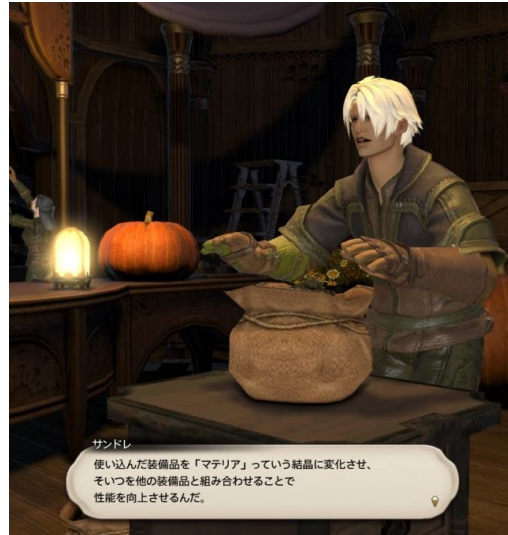


園芸師の身だしなみ

フフチャ：最近、また頑張っているようですね。仕事の幅が広がると、やりがいが出るというのは私にも覚えがありますから。しかし……仕事の幅が広がると、今まで気にならなかったことも、気になってきますよ。たとえば装備品です。今の装備品でも仕事をこなすことはできるでしょうが、腕前に合ったものを身につければ、より捗るはず。買い替えると言っているわけではありません。装備品に「マテリア」と呼ばれる結晶を装着し、その働きを強める方法があるのです。なお、「マテリア」の装着には「触媒」が必要なのですが、幸い私たち園芸師は、伐採により採集できます。そうです、試しに「触媒」の一種である「**コールマター-G1**」を集めてみませんか？西ラノシアのエールポート付近で入手できるはずです。「コールマター-G1」を99個ほど集めたら、**サンドレ**のところで話を聞いてみてください。マテリアのことならば、彼が一番詳しく知っていますから。

サンドレ：フフチャがマテリアについて俺に聞けて？なら、「コールマター-G1」を持ってきてくれ。

サンドレ：なるほど、フフチャにそこまで見込まれたなら話さないわけにもいかないな、いいだろう。マテリアの装着ってというのは、**何年か前**に「**ミユタミクス**」ってゴブリン族が**エオルゼア**に**持ち込んだ技術**でな……。使い込んだ装備品を「マテリア」っていう結晶に変化させ、そいつを他の装備品と組み合わせることで性能を向上させるんだ。実際に「マテリア」と装備品を組み合わせるのは、クラフター、すなわち製作の技を学んだ職人たちだ。だが、そのとき必要となるのが「触媒」だ。お前が集めてきた「コールマター-G1」もそのひとつだが、これは我らギャザラーでなければ集められないのさ。「マテリア」の原理については、俺の頭ではよく、わかってないんだが……まあ、理屈はともかく利用する分には問題ない。もしマテリアについて、もっと詳しく知りたいなら、中央ザナランの「狼煙の丘」にいる連中を訪ねるといいだろう。ちなみに「マテリア」ってのは、いろいろ種類があってな、どんな物を装着するかで、強化される性能が変わるんだ。せっかく触媒を集めてきたことだし、もし知り合いに製作の技を学んだ者がいるのなら、声をかけて、試してみるといいんじゃないか？



海雲を渡る香り

フフチャ：最近は**靈災からの復興も徐々に進み**、以前よりも**他所からグリダニアに来る人の姿を多く見かける**ようになりました。他都市と交易する機会も増えてきましたからね……。園芸師もこれからドンドン忙しくなると思いますよ。現に、今日も他都市からの注文が入っていてましてね。ウルダハの酒場「**クイックサンド**」からなのですが、「**カモミールHQ**」を15束ほど、集めてほしいとのことです。カモミールHQと言えばハーブティーの定番です。自然の香りがもたらす安らぎを、知ってもらうためにも、この大事な仕事をあなたに任せたい。高地ラノシア「**サラオスの亡骸**」付近にて採集し、**サンドレ**のところに持ち込んでください。今回の取りまとめは、彼の仕事です。

サンドレ：ああ、お前が担当になったのか。早く「カモミールHQ」を持ってきてくれ。頼むぞ。

サンドレ：「カモミールHQ」を15束、確かに受け取った。ご苦労だったな、助かったよ。ん、いい香りだ。こいつを「カモミールティー」にしてやると、一層香りが引き立つんだ、お前も作ってみるといい。さて……後は荷造りをして、グリダニア・ランディングに持っていくとするか。確か、宛先はウルダハだったな。……「カモミールティー」はあの都市の金持ち連中のあいだで評判がいいんだが、少し複雑だよ。金銭を最重要視する、あの都市の奴らに、「カモミールティー」を嗜むような気品があるとは思えん。香りよりも、金額を味わっているような印象がある。……いや、こういうのは**偏見**か。いかな、**こうした古いグリダニアの体質**は、おいおいと直していかなければ。



自然の洗礼

- フフチャ**： まずいことになりました……。ギルドで育てていた「アリゲーターベアHQ」が虫の被害によって全滅してしまっただです。仕方ないことはありません。自然と付き合うのが私たち園芸師の仕事。手厳しい洗礼に見舞われるのも宿命のようなものです。いちいち自然を恨んでいては園芸師は務まりませんが……しかしながら運の悪いことに、ちょうどカーラインカフェから注文が入っているのです。幸いなことに、虫にやられたのは私の農園で育てていた「アリゲーターベアHQ」のみ。その他の場所で採れるものならば、まだ望みがあります。「アリゲーターベアHQ」を探し、採集する手助けをしていただけないでしょうか。黒衣森で採れる農作物について、詳しい者を紹介します。「ソリュウ」という園芸師が、「ベントブランチ牧場」を見回っているはず。彼の話聞いて、指示をもらってください。
- ソリュウ**： 「アリゲーターベアHQ」を探している？ ああ、そういえばフフチャさんの農園が虫にやられたんだっけか。カーラインカフェからの注文分が足りないんだね？ だったら、「クォーリーミル」に行ってみるといい。あそこ北東の茂みで採集できたはずだ。俺たちじゃ、ちょっと尻込みするような場所だが、君みたいな冒険者に手伝ってもらえるなら、フフチャさんも心強いことだろう。おっと、長話をしている場合じゃなかったか。確か、カーラインカフェからの注文は15個だったな。さ、急いで行ってきた。
- フフチャ**： 連絡はもらいました。「アリゲーターベアHQ」を集める算段がついたそうですね。15個ですが、よろしくお願いします。
- フフチャ**： 確かに受け取りました。これで注文に間に合いそうです。ミューヌから怒られずに済みます。彼女、店でアリゲーターベアHQのサラダを出すそうですよ。こっそりとしたアリゲーターベアHQを使ってお腹を空かせた冒険者でも満足なサラダにしたいとか。それにしても……今回はお世話になりっぱなしでしたね。あなたがいなければ、ギルドの信頼が大きく損なわれるところでした。……すべてが天然自然の恵みである以上、園芸師の収穫物というのは、決して安定しているものではありません。時には今回のように、自然の力によって手痛いしっぺ返しをもらうこともあります。しかし、園芸師であるのならば、それすら謙虚に受け止めなくてははいけません。決して恨んではならないのです。自然は……決して敵でも仇でもありません。恨みを込めて自然を憎む者がいるとしたら、自然は二度と、その者に恵みを与えることはないでしょう。



凱旋を彩る森の恵み

- フフチャ：まあ、◇◇◇さん、よく来てくれました。ここに来たということは、手が空いているんですね？
戦争に手を貸すようで気が進まないのですが、私の旧友、調理師ヤニの依頼を果たしてもらいたいです。
近く、イクサル族との戦いから凱旋した、神勇隊の隊士をねぎらう宴があるそうなのですがそこで出す料理の材料が足りないというのです。
「ローレルHQ」というハーブを20束……南ザナラン「リトルアラミゴ」の北東付近にある草刈場で採集して、私に見せてくださいね。
- フフチャ：「ローレルHQ」20束の調達をお願いします。南ザナラン「リトルアラミゴ」の北東付近にある草刈場で採集できたら、私に見せてくださいね。
- フフチャ：「ローレルHQ」は、ぴったり20束。ありがとうございます、問題ありませんね。
この依頼は気が進まない、先に言いましたが……疲れて戻ってきた神勇隊の隊士たちに、罪はありません。
ねぎらうことに悪いことなどない、それくらいわかっています。
……ローレルHQは爽やかな香りが特徴的で、香辛料として、さまざまな料理に使われます。
煮込み料理の香りづけはもちろん、肉の臭みを消すのにも役立ちます。食欲の促進効果もあるんですよ。
さあ、このローレルHQを、グレートローム農場で、食材のチェックをしている調理師「ヤニ」に届けてあげてください。
- ヤニ：おお、あなたがフフチャから派遣されてきたという……？ では「ローレルHQ」を用意してくれたのだな？
「ローレルHQ」を20束、たしかに受け取った。助かる、これで時間までに料理を作れそうだ。
……イクサル族の襲撃は増える一方だ。こうした宴を催すヒマさえ、なくなってしまうかもしれない。
だからこそ、最高の料理で、もてなしたくてね。
何より、私は調理師として食生活の面から、隊士たちの支えになりたいんだ。
だが、調理師もまた、あなたがた園芸師の協力なくして良い料理は作れない。己の働きが、誰かを支える……
そう思って、今後とも力を貸してほしい。
それとフフチャに伝えてくれ。君という、いい園芸師を紹介してくれて助かった、とな。
- フフチャ：どうやら、彼女に満足してもらえたようですね。さすがは◇◇◇です。
それにしても、イクサル族との戦いは長引きますね……。森を、グリダニアを守るには、武器を持ち、戦うほかない……わかってはいますが……。
イクサル族も、昔は森と共生していたといいます……私たちが、戦いで森を傷つけながら争うことに正義はあるのでしょうか……？
……ましてや、森を傷つける戦争に加担している園芸師に、森と共存する資格などないのではないかな？
そんな風に思えて、私は悩んでいるのです……。



伝えられた思い出

- フフチャ：……先日、園芸師が戦争を助長するという悩み、私の中ではまだ、解決には至りません……。悩みというのは、まったく狂おしいものですね……。！
ですが、私の状況とは無関係に依頼は来るのです。実は、調理師ヤニに「ズッキーニHQ」の調達を依頼されましたが……。少々、数の確保に手間取っています。
……でも、冒険者であるあなたなら、任せられそうです。自生しているラノシア地方まで赴き、収穫できますからね。どうか、東ラノシア「船着場：レインキャッチャー」の南にある草刈場で「ズッキーニHQ」を20個集めてください。調達できたら、私に見せてくださいね。
- フフチャ：東ラノシア「船着場：レインキャッチャー」の南にある草刈場で「ズッキーニHQ」を20個調達したら、私に見せてくださいね。
- フフチャ：立派な「ズッキーニHQ」ですね！ 湿度に敏感な作物なので、多湿な黒衣森での栽培ではこれほど立派には育たないのですよ。それに、収穫時期の見極めも難しいのです。時期を逃すと、とたんに筋っぽくなってしまい、食べられなくなってしまいますから。でも、皮が固いぶん、煮崩れしにくいので、「ラタトゥイユ」のような煮込み料理には最適！
昔は、よく母のラタトゥイユを食べたものです。
……と、つい思い出にふけてしまいました。さあ、急いで調理師「ヤニ」に届けてあげてください。園芸師ギルドで、あなたを待っているはずです。
- ヤニ：おお、君が依頼を引き受けてくれたんだ。 「ズッキーニHQ」を20個頼むぞ。
- ヤニ：うん、これはいいズッキーニHQだ。こいつで、最高のラタトゥイユを作ろうと思ってね……。ラタトゥイユは、私とフフチャにとって思い出の料理なんだ。父が貿易商でね、幼いころは旅ばかりだった。この旅で知り合ったフフチャと私は友となったのさ。彼女の母親は、よくラタトゥイユを作ってくれてね。あの味に感動して、私は調理師を目指したのさ。一方、フフチャは、あのころから植物を愛していた。彼女から教わった野菜の知識は、料理にも役立つてるんだ。さあ、冒険者、ちょっと待っている。今このズッキーニHQを使ってひとつ料理を作るから……。さあ、今作り上げた、この「特製のラタトゥイユ」をフフチャに持って行ってくれ。彼女……最近、ちょっと苦しそうに見えるからさ。
- フフチャ：「ズッキーニHQ」は渡していただけたのですね。え、私にヤニから届け物ですって……。こ、これは……まさしく母の「ラタトゥイユ」の香り！ ええ、ヤニは熱心に母から料理を習っていました。一方、私は母から、植物のことを学んだのです。思い出します……。あの頃は、今より平和でした。第七霊災があったとはいえ、どうしてこうなったか……。園芸師として自分は力不足なのかと、苦しいです……。



いまだ戦火は途絶えず

フフチャ： ◇◇◇、頼みたい仕事があるんです。……私の気持ちを汲んでくれる、あなたに頼みたい仕事。
グリダニアの「双蛇党」統合司令部から、「ミスルトゥHQ」を集めよ、との依頼がきました。……裏事情が気になります。
クルザス中央高地は「キャンプ・ドラゴンヘッド」……その近くで採れる「ミスルトゥHQ」は秘薬の材料のはず……
もしや、またイクサル族との戦いが始まるのでしょうか……？
「双蛇党」統合司令部のガヴィン少牙士に、探りを入れてみてください。彼が軍需物資の集積を担当していますから……。

ガヴィン少牙士： ミスルトゥHQの使い道を、フフチャが気にしていた？ なるほど、彼女は戦が嫌いだから無理もない。
だが残念なことに、彼女の予想は正解だ。
双蛇隊の兵士たちのため、秘薬の材料として使うのだ。まさしく、戦への備え以外の何物でもない。
……平然としているように見えるか？ 戦を肯定しているように思えるか？
ふん、戦などないほうがいいに決まっている。しかし、こちらがどう思おうと、イクサル族は襲ってくるんだ。
もはや交渉は不可能であり、無意味だよ。
これから、ものを言うのは武力になるだろう。我々は、人々の現在と未来を守るために戦っている。
すべては、そのための準備なのだ。
ともかく、「ミスルトゥHQ」20束を用意し園芸師ギルドの「フフチャ」に届けるように。
後ほど、双蛇党の使いが受け取りに行くのでな。

フフチャ： 話は、こちらにも来ています。それでは「ミスルトゥHQ」を20束、預かりますね。
御苦労でしたね、◇◇◇。……やはり、また戦が起こると。
ガヴィン少牙士が言うのならば、真実なのでしょう。彼は嘘をつかない方ですから……でも、残念です。
本当に戦が起こってしまうなんて。
……以前にも少し話しましたが、私はどうしても、**戦で森が傷つくことが耐えられない**のです。
私たち園芸師は森と生き、慈しみ育てるのが仕事のはず。なのに、これではまるでミスルトゥHQ……ヤドリギのように、
森に寄生しているみたいではありませんか。
戦争のために、森から搾取するだけ……その何が園芸師なのでしょう？ 私は上手い答えをだすことができません……。



森を育む者

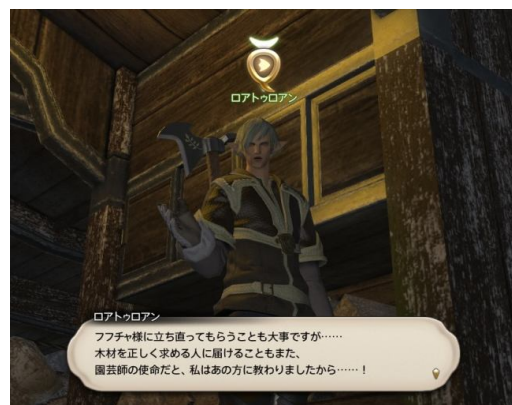
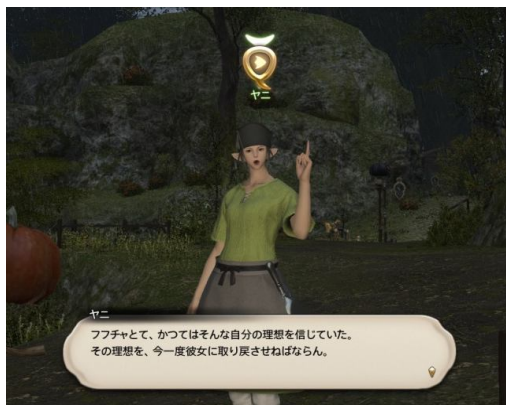
フフチャ : おや、よく来てくれました。……え、元気がないように見えますか？ そうですね、私……引退しようと思います。イクサル族との戦は続き、ガレマール帝国軍も、不穏な動きを見せています。世に争いの種は尽きず、ただ森が、自然が、犠牲になる。それを思うと、私は胸が締め付けられるのです。自分のしてきたことが、無意味に思えて……
我が友「ヤニ」からも、思いとどまるよう、いろいろと言われましたが……もはや、私は園芸師としてやっていく自信がありません。そういえば、「ヤニ」があなたに相談があるとか。何の話かはわかりませんが……聞いてあげてください。
「グレートノーム農場」にいるはずですから。

ヤニ : ご足労、感謝する……フフチャの様子は見ただろう。引退などと言い出し、私は友として忸怩たる思いだよ。
今の私があるのは、彼女のおかげなのだからな。
若き日より、彼女には食材の調達で何度も世話になった。そんな恩人の彼女が引退など、断じて見過ごせん。
なんとかして、私はフフチャを立ち直らせたいたいのだ！
確かに園芸師という森と民の仲介者がなくば、民に侵されず、森は自然のまままでいられたかもしれない。
だが、逆に傷ついた森を癒せるのも、園芸師だけなのだ。
ましてや、彼女があゝの第七霊災からの復興のため、世界中に植林して回ったことが、無意味のはずがない。
彼女の行いは、人と森の共存のためになっているはずだ。
フフチャとて、かつてはそんな自分の理想を信じていた。その理想を、今一度彼女に取り戻させねばならん。
……以前に彼女の弟子だった者から聞いた話だが、**クルザスには、かつて彼女が植林した林**があり、
そこは今、立派に育って人々の役に立っていると聞く。
彼女が何を思い、どんな気持ちで植林していたか……園芸師ならぬ私では、彼女の心情を共有してはやれぬ。
だが園芸師の君であれば、それができるかもしれぬ。
クルザス中央高地の「**ティンバーロード山荘**」に、私にこの話をした、園芸師「**ロアトゥロアン**」がいる。
彼に相談してみてくれ……！

ロアトゥロアン : あなたが◇◇◇さんですか？ お話は、ヤニさんからうかがっています。聞けば、ギルドマスター・フフチャ様のお心の問題とか。我が師フフチャ様には、大変お世話になりました。クルザスの者として、どれだけ感謝してもし足りないほど。
ここは是非とも、恩返しをしておかぬば。
そこで考えたのですが……方法をひとつ思いつきました。……「**スプリース原木**」をご存じですか？
特定の条件が揃わないと採集できない、幻の木です。
豊かな森にしか生育できないというその木を、フフチャ様は第七霊災の被害から復活させようと、このクルザスの地でひとり、植林に励んだそうです。
だから、もしここクルザスの森から「スプリース原木」を見つけることができれば、
彼女の行いが無駄ではなく、実を結んだ証拠になります。
ですが……日の出から日没まで待ち続けて、やっと見つけれられる木から採集できると聞きます。
しかも、ただ探すだけでは徒労となるでしょう。「**トゥルー・オブ・フォレスト**」なる、園芸師のスキルが必要になるとか。
◇◇◇さん、「未知の良木」を探して、「スプリース原木」を3本集めて、私に届けてください。あなたならできるはずです！

ロアトゥロアン : 必要なのは「未知の良木」から採集できる、「スプリース原木」です。3本集めて、私に見せてくださいぬ。
「未知の良木」は日の出から日没まで待ち続けて、やっと見つけれることができるとか……。
そのときには、「トゥルー・オブ・フォレスト」なる、園芸師のスキルが必要になるそうですよ。

ロアトゥロアン : さすがです、本当に見つけてくるなんて！ 早速フフチャ様に……と思ったのですが、ひとつだけ、お願いがあるんです。
◇◇◇さん、ここ**クルザス**では、**ドラゴン族と戦争をしている**のは、ご存知ですか？
戦いは激しく、要塞や集落が被害を受けることもしばしば。おかげで、大工がひっきりなしに走りまわってますよ。
ここの木材も、その多くが被災時に用いられます。
ついさっきも、「困り果てた木工師」を見かけました。その「スプリース原木」を一部でかまいません、
「困り果てた木工師」に届けてあげてくれませんか？
フフチャ様に立ち直ってもらうことも大事ですが……木材を正しく求める人に届けることもまた、
園芸師の使命だと、私はあの方に教わりましたから……！



り果てた木工師： ん、なんだいあんた？ 俺が何をしているかって？
建材に使えそうな、材木を探しているんよ。ドラゴン族に襲われて、粉々になった建物のな。
嘘じゃねえよ、ドラゴン族による被害なんてよくあることだ。このイシュガルドは、ドラゴン族と戦争してるからな。
それで、建物を直す資材を集めてくれて、集落の仲間に頼まれたんだが、アテがなくなってるな。
なんとか、いい材料を集めてやりたいんだが……あんた、心当たりないか？
おお……すげえ、そいつはすげえっ！ なんて品質だよ、こんなすげえ木材は見たことねえぜ！
あんた教えてくれ、その木材はどこで手に入れた！？
こういうのが、たくさん必要なんだ！ 伐採した場所を教えてくださいんか！？

フフチャ： ……その木を、必要としてくれるのですか？

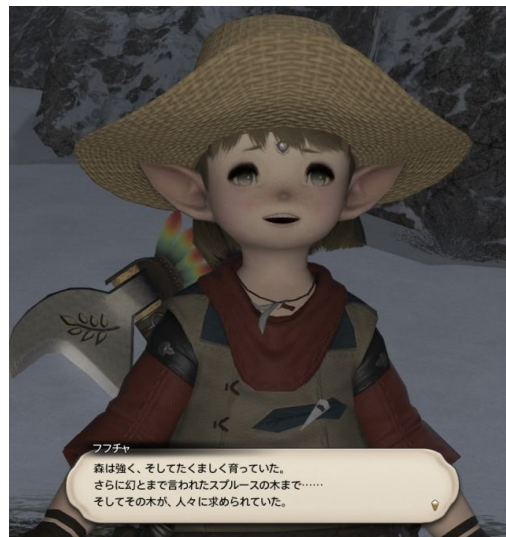
り果てた木工師： ああ、そうだが……あんたは……？

フフチャ： その木材は、私が植林した木を製材したものです。木材が必要なら、ティンバーロード山荘までどうぞ。
その木に負けないほどの木材を、手配できますよ。

り果てた木工師： おお、本当かい！？ そいつは助かる、ありがとよっ！



フフチャ： 少し、歩きましょうか？ たまには散歩もいいでしょう。
や二から、見ておくべきものがあるとわれ、わけもわからず、クルザスまで足を伸ばしましたが……
彼女の言っていたのは、この森のことなのですね。
彼女は、この森を見せることで、私を元気づけようと……。◇◇◇、あなたもそうなのでしょう？
私に立派に育った木材を見せようとした……そうね？
……この森、木材を見ればわかります。私がイシュガルドに伝えた園芸師の技は根付き、無駄にはなっていないかったですね。
森は強く、そしてたくましく育っていた。さらに幻とまで言われたスプールの木まで……そしてその木が、人々に求められていた。
森を育て、その恵みを仲介するのが園芸師。その喜びを……改めて思いました。
……それに、さっきの方は、壊れた建物を直すために、私の育てた木材を使いたいと言っていましたね？
グリダニアと同じように、戦火が森を苦しめている……ですが、その痛みを受け止める強さが、この森にはある。
搾取されるのではない、**分け与えてくれる**……強さが。
見てください、この溢れる生命力を。私は、この森を植林したことを誇りに思います。いえ……思えます！
心を覆っていた、もやが晴れた気分です。この新芽の輝きの記憶……ずっと胸にしまっておきます。
そしてこの感動を、ギルドの皆にも分けてあげたい。さあ、グリダニアに戻りましょう。黒衣森が、私たちを待っています！



フフチャ：今回は、本当にありがとうございました……。あなたのおかげで、心が軽くなりました。
もちろん戦が続く限り、森は傷つきますし、人が生きていくために、身を守るために、森を消耗していくことは、身悶えるほど悲しい。
しかし、人が人として生きていくためにそれが必要ならば……。私たち園芸師は**人を生かし、森も生かす**べきでしょう。
そのことを……。私はすっかり忘れていました。ただ森が傷つくことを悲しむあまり、見失っていた……。情けないですね。
こんな時こそ、私たち園芸師が傷ついた森を癒し、再生させていかねばならないというのに。
引退など考えている場合じゃありませんでした。どうやら、まだまだ私も未熟だったようです。
むしろあなたのほうが、園芸師としては完成しています。
ならば私は、あなたを目標にしましょう。あなたを目指して、努力を重ねますとも。
「筆頭園芸師」ではなく、ひとりの園芸師として、ね。



登場人物

フフチャ：園芸師ギルドのギルドマスター。旧14でもギルドマスター



ヤニ：調理師。フフチャの友達。



シセリー：園芸師ギルドメンバー。旧14では都会（ウルダハ）に憧れていた。



困り果てた木工師：イシュガルドの木工師。



サンドレ：園芸師ギルドメンバー。



ロアトゥロアン：園芸師。



ソリユー：園芸師。



アルバガスト：依頼人。グリダニア「黒檀商店街」の薬屋



ガヴィン：双蛇党の少牙士



レオンソ：園芸師ギルド受付

